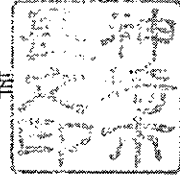




建 第 237 号
平成20年10月21日

国土交通省道路局長 様

神埼市長 松本茂幸



今後の道路行政についての意見・提案について（提出）

標記の件について、平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼のあった、のことについて別紙のとおり提出いたします。

今後の道路行政について意見・提案

① 道路行政全般に改善すべき点、要望や提案

道路整備は、地域経済の活性化や安心・安全な地域の形成はもとより、交通環境の改善や教育、医療、福祉などの生活環境の向上を図るうえで、最も基幹的な社会資本であ、特に道路整備の遅れている地方にとっては、今後とも計画的かつ緊急に道路整備を進める必要があります。

このような中、本年6月閣議決定された「骨太2008」の中で、道路特定財源は平成21年度から一般財源化し、その際には、地方財政に影響を及ぼさないように措置するとともに、必要とされる道路は着実に整備されるとされております。

また、新たな道路の「中期計画」は5年とし、最新の交通需要推計などを基礎に新たな整備計画を策定することが示されております。

とりわけ、地方にとって道路は生活を営んでいくために必要な生命線であり、遅れている基幹的な幹線道路の整備や交通安全対策などの充実のためには、どうしても、道路整備財源の確保が重要となってまいります。

つきましては、新たな「中期計画」の策定においては、地方の意見を十分に配慮していただき、真に必要な道路が今後も着実に進められるよう、道路整備財源の確保に努めていただくことを強く要望いたします。

今後の道路行政について意見・提案

②－2地域の目指すべき将来像

神崎市は、3町村の合併によって、市民の生活に支障を来たさないよう幹線道路やそれに直結していく道路の整備等を切望されているところであります。

また、県道佐賀川久保鳥栖線と県道佐賀外環状線及び県道佐賀大川線と県道三瀬神埼線を回し福岡市を結ぶ構想は、これからのあたらしいまちづくりにつながり地場産業の発展に寄与するばかりでなく、新市の交通体制を充実させるものであります。

今後の道路行政について意見・提案

②－１ 地域の現状と抱える課題

○現状

神埼市の現状は、人口33,699人、世帯数11,010世帯を抱える市として発足したものです。新しい神埼市の誕生は地方財源確保のために、平成の大合併は避けては通れない重要政策のひとつとして取り組まれたものです。

道路施策については、市の東西南北を結ぶ基幹道路の整備や国・県道に係る道路改良要望等さまざまな課題が山積しております。

○課題

今後の道路整備については、地域整備の基本となる交通網の整備は、市の幹線道路といえる東西南北の重要幹線を整備することが望まれます。

これらの課題は、市の新しいまちづくりの基本方針として据えたものであります。